

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

雪解けが進む水田の畔に小鳥たちがエサを求め、姿に春の訪れを感じ、時期になってきた。鳥は歯をもたないので消化器系は食へ物の分解のあらゆる段階

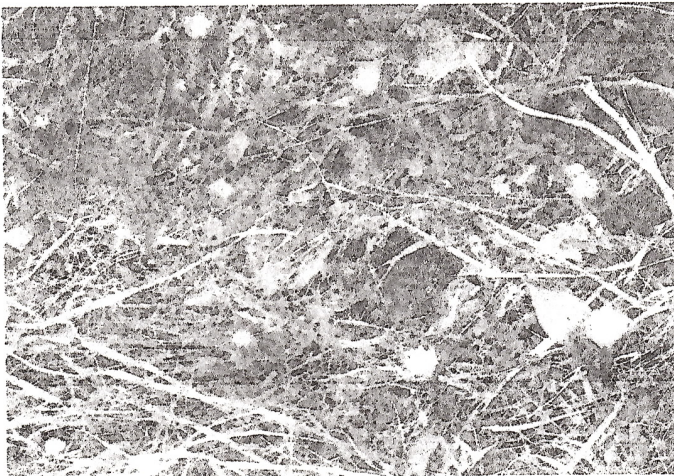
を行わなければならない。食へ物を一時的に蓄え、徐々に前胃を砂の上におくる「そのう」、飲み込んだ砂粒がいっぱい詰まり食べ物をすりつぶす「砂のう」。歯のある動物とは異なる生態を親子で観察するのも身近な学びの一つだ。

ドイツの作家

家エンデの「モモ」のなぞなぞに、三人の兄弟が一つの家に住んでいる。一番上ははいまいない、これからやっとあらわれる「二番目もいないが、こっちはもう出かけたあと」「三番目ほこにいない」と

現在の問題を避けてはいけない

あとの二人は、なくなってしまうから。答えは一番上が「未来」、二番目は「過去」、三番目は「現在」だ。1月に米科学誌「ブレティン・オブ・シ・アトミック・サイエンティスツ」は核戦争に発展してもおかしくない状況、また深刻な気候変動の影響を列挙し、大半の政府が地球温暖化を止めるための資金調達や政策の戦略を法制化しないことを批判した。2日にはトランプ米大統領が「相互関税」の導入を発表。第2次大戦後の自由貿易体制の大きな転換点となり、貿易戦争の激化は避けられず世界経済への打撃は必至の状況で、更なる針の秒数が進むのは避けられない。現在が消えれば過去も未来もやってくる。当たり前



雪解けが進む里にも福寿草が春の訪れを誘う

なぞなぞの答えが人類への警告かもしれない。科学メーカーのクラシが2025年版新小

学一年生の「将来就きたい職業」、親の「就かせたい職業」を発表した。男女を合わせた総合順位のトップ3

は、1位「ケーキ屋・パン屋」、2位「警察官」、3位「スポーツ選手」に。男の親の就かせたい職業は2年前と同じ「公務員」、女の子の親の就かせたい職業は20年前「看護師」が今年「公務員」。公務員が安定しているとの考えが続く社会であり続けてほしいものだ。新小学一年生の将来に抱く職業が、これから訪れる超高齢化社会にどの様に影響するのを見守っていかなくてはと考えさせられた。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)